



# 初・ト・リ・ハ・ビ・テ・ト

初台リハビリテーション病院

2006  
春季号URL <http://www.hatoudai-reha.or.jp>

相原・井手・医療法人 律生会 初台リハビリテーション病院 TEL 03-5365-8500

平成18年1月30日(発行年月)

## 2006年院長抱負

2006年が始まりました。2005年の小泉改革旋風をうけ、2006年は医療界にとっても大きな節目の年になると思われます。

ご存知のように、財政的観点から国民皆保険制度の存続のために、医療費の抑制が大きな流れになっております。医療費のマイナス改定、老人医療費の個人負担額のアップなど厳しい状況を迎えております。リハビリテーション医療もその流れの中で、資源の効率的な利用が避けられない問題となっています。

4月からの診療報酬の改訂で、当院で行っている回復期リハビリテーションについても変更が余儀なくされると予想されます。内容についてはまだ全く不明であり、皆様にもいろいろご心配なことと存じますし、私どももどのような改訂になるのか、図々を呑んで覚守っているという方が正直な心境です。

しかし、私どもが現在皆様に提供しているリハビリ医療サービスは、障害を抱えた患者さまには必要なものであり、正しいやり方であるとも考えております。

制度は変わる可能性が高く、若干の変更、特に効率化は余儀なくされるとは思いますが、今まで以上の質の高いリハビリ医療サービスを提供してゆく覚悟でございますので、今後とも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



院長 木下 牧子

## 日本医療機能病院認定のお知らせ

もうひとつご報告することがあります。病院開設3年目を迎え、3段階で準備した全病床オープンも無事終えたことから、昨年7月に日本医療機能評価を受審いたしました。医療機能評価とは、施設基本票、部門別調査票、診療機能調査票、経営調査票といった病院全体の概況を表す調査票の提出と共に、1)病院組織の運営と地域における役割、2)患者の権利と安全確保の体制、3)療養環境と患者サービス、4)医療提供の組織と運営、5)医療の質と安全のためのケアプロセス、6)病院運営管理の合理

性の6つの領域について、計577項目の質問についてまず自己評価を行い、その後訪問調査を2日にわたって受けるものです。医療の質や安全といった医療的な側面や経営状態から、ゴミの捨て方、調理場の食材の管理方法まで本当にスミからスミまでの審査でした。

自己評価の段階で未整備の点がいくつか見つかったことは大きな収穫でした。評価基準を大きく超えて、胸をはって5点満点をつけることができた項目もありましたが、皆が力をあわせ足りないところを補い、良いところさらに改善し、すべての項目で自己評価4点以上の点をつけるまでにいたりました。受審の前日はまさに試験前の心境です。いろいろ不安にはなりますが、ここまでやつたらあとは有りのままの姿を見てもらうより仕方ないという想いでした。2日間はあっという間にすぎ、たくさんの質問に答え、最後の講評では概ね良好というコメントを

いただきましたが、最終結果の判定には3ヶ月かかるとのこと、とりあえず講評で指摘されたいくつかのポイントについて検討を終え、受審したことでも忘れかかった11月のある日、突然認定証が届きました。多くの施設が、いくつか改善要望事項を指摘され、その改善計画と改善結果を報告して楽く認定されると聞いていましたので、びっくりしていました。改善要望事項は全くなく、一回で認定されたのです。職員一同、これまで自分たちが正しいと思ってやってきたことを、きちんと第三者に評価されたと、大喜びでした。

機能評価は5年ごとの更新制度になっています。5年後の更新に備え、日々改善努力を続けることはもちろんですが、私たちもこの評価に甘んじることなく、口幅ったい言い方かもしれないが、この機能評価基準以上の病院をめざそうと今後も努力を続けるつもりです。そのためには、皆様のご指導・ご支援が不可欠です。どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。

## 認定証



春季号  
ラインナップ!!

2P 当院の特色  
作業療法部門

3P 特集 リハケア合同研究大会in大阪

4P 2005年もちつき大会風景  
パレーホール部  
きになるお店 vol.8  
あとがき

## 当院の特色 作業療法部門

2006年の年始は作業療法部門の紹介からはじめさせていただきます。作業療法部門は総勢62名の日常生活動作を含んだ「作業活動」大好き人間の集団です。その内訳は入院45名、外来8名、訪問看護ステーション3名、地域への出向者4名、教育管理部2名です。教育管理部以外は、20代~30代全般の若人集団です。

作業療法士は40年前に理学療法士及び作業療法士法が施行された時から、リハビリテーションの専門として、一般病院を始めとして、保健・医療・福祉の多方面で活躍しています。現在、2万9千5百人が全国で働いています。

まずは、作業療法士 Occupational Therapist (OTオーティ) の大好きな「作業活動」をお話します。「作業活動」は人がくらし(生活)や生きる為に行っているさまざまな活動です。ごくごく、当たり前の日常生活や仕事・遊び・余暇に関する活動です。



ここは、回復期のリハビリテーション病院ですので、セルフケア(身の回りの活動)に代表される日常生活動作(以下ADLと略します)が大切な作業活動となります。少しでも身の回りの

ことが自分でできるように援助します。その際、精神・心理機能に代表される心の動きや、運動機能といわれる物を扱う・操作する手足の動き、高次脳機能障害(失語・失行・記憶・見当識等の障害)等の環境の捉え方(認知)の傾向を考えながら、環境を調整し、一人一人にあつた「意味のある作業」を取り入れ訓練します。

その為、畳の上の立ち上がり・机や棚の伝え歩き、トイレや着替え等のADL訓練から手工芸・木工等の生産的活動、握力等の筋力強化訓練と徒手的ストレッチや体操、そして台所仕事やコンピューター操作など様々な作業活動を実施します。

もう一つ、OTの得意とすることがあります。それは、福祉機器の選定と生活に便利な道具や安全な環境づくりです。片手で身体を洗うことができる洗体用のタオルや左手で使いやすいスプーン・箸の改良、肩の亜脱臼を保護するアームスリング、着易い洋服、ベットから車椅子



### 生きぬく、暮らしうく為の「意味ある作業」

に移る為のリフトに代表される移乗用具・介助用具等を個人に合わせて作り、使い方を指導したりします。

以上がOTの特徴です。最後に、当院独自のOTの2大特徴をお話します。ひとつはなんといっても早出・遅出の時間帯にケアスタッフとして実際のケアも行っていることです。訓練で身につけたことを生活に生かすお手伝いもしています。もうひとつは外来・訪問リハビリテーションの充実です。家庭・社会生活の充実に向けて、身体的な訓練だけでなく、ケアする時のコツや生き生きと生きぬく、暮らしうく為のコツをご本人さんと一緒に考えています。それでは、誕生日に来て、新たな人生に初出をいたしましょう！



教育管理部 作業療法部門 テーブル 河野 緑

## 特集 リハケア合同研究大会 in 大阪

2005年10月28・29日に大阪にて、リハケア合同研究大会が開催されました。当院のスタッフも多数参加し、研究発表したので、その一部をご紹介します。



### 「回復期リハビリテーション病棟における介護福祉士の組織的なチームアプローチへの参画」

当院のような回復期リハ病棟では介護福祉士がチームの一員として働いています。しかし、医療職ではない介護福祉士にどのような役割が期待されているのかは明らかにされていません。そこで、介護職にどのような情報の提供が期待されているのか、どのようにチームに参加するべきなのかについて調査をしました。結果として、患者さんの日常の動作に着目して、特に夜間帯の情報を伝達し、介護職として患者さんの今後の生活を考えてケアをし、積極的に

情報発信していくことが介護福祉士の役割として期待されていることがわかりました。これからもチームの一員として、介護専門職としての情報や意見を発信していきたいと考えています。

5期 ケアワーカー 吉澤 鮎美

## 「当院外来における家庭訪問の意義」

外来のリハスタッフが家庭訪問等を行った21名の外来通院患者さんについての調査結果を発表しました。家庭訪問の目的は、転倒防止のためが2件、日常生活に関わる事が10件、公共交通



機関の利用に関する事が4件、屋外歩行に関する事が2件でした。家庭訪問後には90%の患者さんについて改善が得られ、その理由には課題が明確であった事や外来担当スタッフによりすでに評価が行えているため、効果を予測しやすかった事などが推測されました。

外来から家庭訪問等を実施する利点は、課題に対して迅速な対応が行なえる事、また担当スタッフが対応することから患者さん及びご家族への負担を最小限に抑える事ができるなどが考えられます。そのためにも、普段から注意深く情報収集し、課題を早期発見して対処する事が重要と考えました。

外来 理学療法士 石川 夕希子

## 「当院外来PTの役割について」

外来の患者さんがどのような課題を持ってリハビリに取り組まれているかについて発表しました。病院を退院して新しい課題に向かっている方、長く在宅生活を続けているうちに身体が弱って外に出られなくなった方など、様々な経緯の患者さんが当院の外来リハビリを利用されており、私たち療法士にも多種多様な役割が求められるという内容です。

発表後の質疑応答では、当院外来のマンパワーやチームアプローチの充実について関心を持っていただけたようで、しくみなどについて多くの質問を頂きました。全国的にみて外来全体のチームでの取り組みや、介護保険サービスとの連携の充実、実績についての系統だった調査は、まだまだ不十分な状態です。その点に関して今後調査を進め、当院外来部門のシステム整備に生かしていきたいと考えています。

外来 理学療法士 御代川 英己

簡易的な内容しかスペース上掲載できないので、詳しく知りたい方はお気軽に各スタッフにお声掛け下さい。

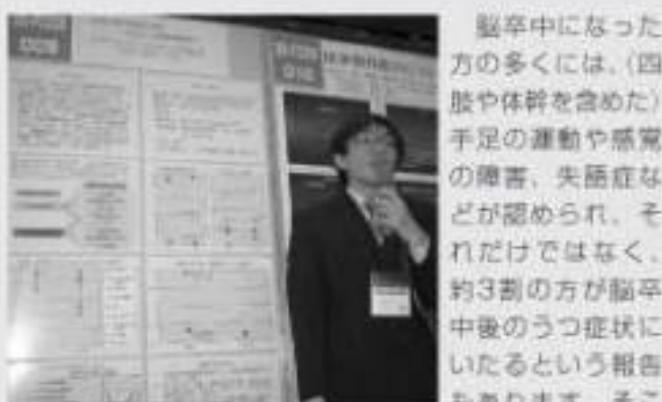
## 「当訪問看護ステーションにおける訪問リハビリテーション終了者の傾向」

本研究では、当訪問看護ステーションの訪問リハビリを利用し、目標を達成され終了された方の経過について分析をしました。

訪問リハビリを実施している方全般に、利用期間中の日常生活の自立度に低下は見られず介護予防はできていました。特に準備たきり(室内での生活にはあまり介助が必要としないが、屋外では何らかの介助が必要な人)の方の能力が大きく向上していました。また、目標達成までの平均期間は約3ヶ月でした。この結果から準備たきり群では変化が起こりやすく、頻回に目標の達成度を図る必要があることがわかり、その目安は3ヶ月が妥当であると考えました。今後は、終了者の追跡調査を行なっていき、その妥当性について検証していきたいと思っています。

当訪問看護ステーション 理学療法士 武田 舞白

## 「当院入院患者のQOLについて」



脳卒中になった方の多くには、(四肢や体幹を含めた)手足の運動や感覚の障害、失語症などが認められ、それだけではなく、約3割の方が脳卒中後のうつ症状にいたるという報告もあります。そこで、当院の入院患者さんを対象に「健康感」についてのアンケートを実施しました。結果は、在宅生活をしている方の全国平均と比較しても低い傾向にありました。「自宅生活への不安」や「身体機能への回復への不安」などの当院を退院してからの生活に対する「不安」が原因として多かったです。この結果を踏まえ、私達はリハビリテーションを提供していく上で身体機能だけでなく、QOL(精神的健康感)へ相互に配慮をすることが「心のケア」となり、活動から参加の拡大を図るためにも必要なアプローチではないかと感じました。「患者さんの不安」や「退院後の生活」を知るために、今後も継続して健康感に関する調査を行なっていきたいと考えています。

外来 理学療法士 萩原 勇一郎





## 2005 もちつき大会 開催

2005年12月25日に当院1階にて、  
もちつき大会が開催されました。



### こちらバレーボール部です。

当院では仕事の場を離れたところで、職員によるさまざまなサークル活動が展開されています。そんな中でもバレーボール部は発足後丸2年を迎える比較的歴史のある(?)サークルです。チーム名は、Hatsudai Rehabilitation Volleyball Club -HR.V.C-といいます。

バレーボールというと「観るだけのスポーツ」「マイナーなスポーツ」などと揶揄されることもしばしばですが、実は学生時代にほとんどの方が体験されているスポーツであり、職員の中にも「想れ経験者」が多いとバレーボール部では推測しています。最近ではゴールデンタイムにテレビ放映されたりと、

少しづつ人気回復の兆しがあります。

他のサークルでも同じことが言えます、バレーボール部も例外ではなく、医師をはじめとする多職種のメンバーが集まって練習や試合などを実行しています。現在は月に2回程度、夜間帯に体育館を借りて定期的に活動を行なっていますが、業務が終わらざるに参加できない職員もいますし、やる気マンマンで時間どおりに準備をはじめてくれるメンバーもあります。初心者も多いため、男女仲良く混浴で試合などを組んでいます。

当院は週末でも勤務に出るスタッフが大勢おり、練習試合や大会などにな

かなか参加することが難しいのですが、昨年の11月には世田谷区のソフトバレーボール大会に2チームエントリーし、決勝リーグまでは駒を進められませんでしたが、さらなる団結力を築き、交流も深められました。今後もこういった機会を増やしていくべきと考えています。ソーシャルワーカー 木島 貴志



## 近頃の きになるお店

Vol.8 ▶ (有)オオタ商会 初台営業所

このたび(有)オオタ商会では、巡回後の在宅生活支援機能をより強化するため、訪問看護ステーション初台営業室に、「(有)オオタ商会 初台営業所」を2005年11月1日にスタッフ7名体制でスタートしました。

主な業務は、居宅介護支援事業、福祉用具貸与事業、住宅改修工事などです。

テクノエイドショップ内に展示されていた車いす、ベット、リフトなどの大型の福祉機器は、初台営業所内に展示場所を移し、どなたでもご自由に試用できます。

又、住宅改修に関するご相談は随時対応させていただきますので、どんなことでもご相談ください。



新事業所を代表して所長の福島よりご挨拶申し上げます。皆様方の在宅支援の良きパートナーとなれるよう、スタッフ一同精一杯努力させていただきますので、ご指導の程よろしくお願い申しあげます。

オオタ商会 初台営業所 所長 福島 麻政

### あとがき

2006年最初の初NETが発行されました。楽しんでいただけましたか。みなさんはどのような抱負を持った新年を迎えたか。より良い情報を自指し、編集員一同これからもがんばります。今年もみなさんにとて素敵な一年になりますように…。

栄養科 毛塚 真理子

